

エピソード8 ～ B君の回想…先生の一言～

50代 中学校 男性

私が学年主任をしていたときの生徒です。成績も優秀で生徒会副会長だったB君は、中2の3学期になって体調不良を訴え、遅刻したり保健室で休んだりが増えていきました。

B君は卒業式で在校生代表として送辞を読むことになったのですが、体調が不安定で学年の先生たちも心配しました。

何とか本番は立派に任務を果たすことができたB君でしたが、後日こんな話してくれました。「あの時、倒れたりしないか心配で、送辞を読むのが怖いつて言ったら、先生がこう言ってくれたんです。『ヒトは日々成長して強くなるから心配いらんよ』と。

あの言葉で気が楽になりました。」

私はB君に聞かされるまでこの会話のことは忘れていたのですが、強くなりたいと思っていたB君に「強くなる」と断言するように言った私の言葉が、B君に力を与えたようです。

しかし私は出任せを言ったわけではありません。人は日々成長して強くなると思う気持ちは本心です。

人は、自信がなくて心配なとき、信頼できる人から自信たっぷりの態度で励ましの言葉を投げかけられると、それが強い暗示効果となって自分を強化することができます。

この先生は、長年の経験からその生徒がうまくやれることを確信していたのかも知れません。しかしこの先生がその気持ちを確信を持って相手に伝えることをしなかったとすれば、彼はもっと不安に苦しんだかも知れません。

先生や親に「心配無用」と言い切ってもらうことは、おみくじや占いで「大吉」が出たときよりも大きな励ましになるものです。

そして、この「心配無用」の根拠「人は日々成長して強くなる」という人間観で子どもたちを見る見方を「ピグマリオン教育観」と呼びます。